

「糖尿病性神経障害・線維筋痛症・  
慢性腰痛症・変形性関節症に伴う痛み」で

デュロキセチンカプセル「JG」を  
服用される患者さまとご家族の方へ



## 「痛み」を感じる仕組み

---

痛みは、脳の神経細胞が「痛い」という信号をキャッチして生まれる感覚です。痛みに関連する神経の経路には、「痛い」という信号を脳に伝える経路と、「痛い」という信号を抑える経路の二つがあります。

痛みが長く続いている患者さまでは、信号を抑える経路に異常が生じていることが原因の一つであると考えられています。



## このお薬の効果と作用

---

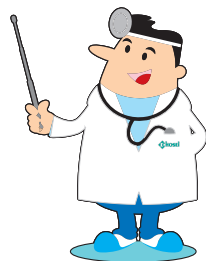
- このお薬は、中枢神経系の痛みを抑制する経路に作用し、長く続く痛み（糖尿病性神経障害・線維筋痛症・慢性腰痛症・変形性関節症に伴う痛み）を和らげるお薬です。
- 「うつ病・うつ状態」の治療にも使われるお薬ですが、鎮痛効果は、うつに対する作用とは独立した作用が主となって発揮されると考えられています。

## このお薬の副作用について

飲み始めてから最初の1～2週間は、眠気や吐き気などの副作用があらわれることがあります。その後、自然に治まってくることもありますが、気になる症状がある場合は、ご自身の判断で服用を中止せず、まずは医師にご相談ください。

## その他の注意

カプセルをあけたりせず、そのまま服用してください。



## 服用時の注意

- 肝機能、心拍数、血圧に影響を与えることがあるため、血液検査、脈拍数や血圧測定を行い、異常がないか確認することがあります。
- めまいやふらつきにより転倒することがありますので、これらの症状を感じたら早めに医師や薬剤師にお伝えください。
- 眠気、めまいなどの症状があらわれることがあるため、自動車の運転などの危険を伴う機械を操作するときは、十分に注意してください。またこれらの症状を自覚した場合は、危険を伴う機械の操作は絶対にしないでください。特に薬の飲み始め、飲む量を変えたとき、他の薬から変えた際にこれらの症状があらわれやすいため、医師より運転などをしないように指示があった場合は指示を守りましょう。
- 糖尿病の患者さまでは血糖値やヘモグロビンA1cに影響を与えることがあります。その場合、必要に応じて糖尿病治療薬の調整が行われます。
- 痛み止めとして用いられている非ステロイド性抗炎症薬 (NSAIDs) には、消化管出血の副作用が知られており、このお薬と一緒に使用される場合はリスクが高まる可能性があります。  
気になる症状があれば、早めに医師や薬剤師にご相談ください。

このほかにも、気になることや分からないことがある場合は、医師または薬剤師にご相談ください。

## 患者さまとご家族の方へ

うつ病など、精神科の病気で治療されている場合は、精神科の病気の症状に影響を与える可能性がありますので、服用前に医師にお伝えください。

### 患者さまへ

- 飲み始めや飲む量が変わったときに、生きるのがつらいと感じたり、消えてしまいたいという気持ちになったり、場合によっては死にたいという気持ちになったりすることが、患者さまによってまれにあらわれることがあります。
- 不安になる、いらいらする、あせる、興奮しやすい、発作的にパニック状態になる、ちょっとした刺激で気持ちや体の変調を来す、敵意を持つ、攻撃的になる、衝動的に行動する、じっとしていることができない、などの症状があらわれることがあります。
- 病状に変化があったと感じた場合には、医師に相談してください。

### ご家族の方へ

患者さまのこれらの症状に気づかれた場合、患者さまご本人かご家族の方から早めに医師にご連絡ください。

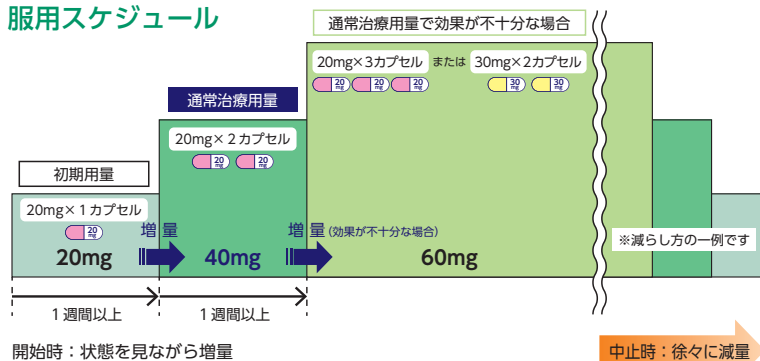
# お薬の飲み方と量

- 1日1回朝食後に服用します。
- 痛みがあるときだけでなく、毎日服用することで
- 効果があらわれるまでに時間がかかることがあります

## 糖尿病性神経障害に伴う痛みの場合

- ◆ 服用量は20mgから始め、1週間以上の間隔を空けて、1日1回40mgまで増量します。
- ◆ 通常治療用量は、1日1回40mgです。
- ◆ 効果が不十分な場合は、1日1回60mgまで増量することがあります。

### 服用スケジュール

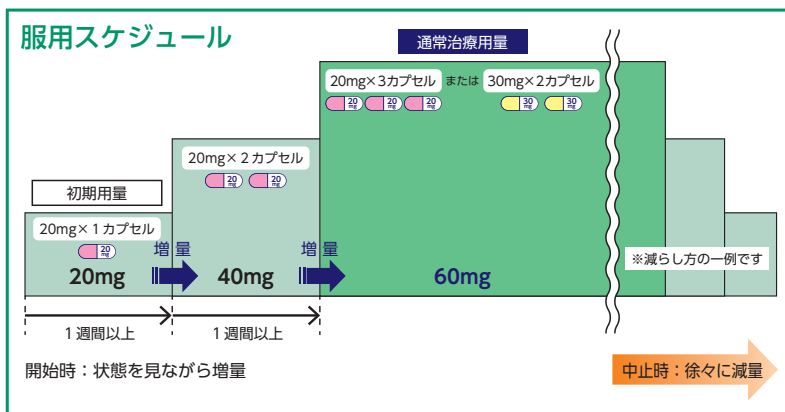


- 患者さまの状態を見ながら徐々に服用量を増やして必要な量を調整が大切です。
- 中止するときは、少しずつ服用量を減らしていきます。自己判断する、興奮しやすい、めまい、感覚の異常(電気ショック様感覚を含む)。医師の指示通りに服用することが大切です。

効果を発揮します。  
ます。

## 線維筋痛症・慢性腰痛症・変形性関節症に伴う痛みの場合


- ◆服用量は20mgから始め、1週間以上の間隔を空けて、20mgずつ増量し、最終的に60mgまで増量します。
- ◆通常治療用量は、1日1回60mgです。



します。症状を改善するためには、決められた量を続けて服用すること  
て服用を中止した場合(特に急に中止した場合)に、不安になる、あせむ)、頭痛、吐き気、筋肉の痛みなどの症状があらわれることがあります

医療機関名／連絡先

 日本ジェネリック株式会社

 chosei 長生堂製薬株式会社